

未来へつなぐコア
Hug & peace



計画地は穏やかな園芸のまち。住人にとっては地域交流が、先代から続くあたりまえの日常風景であった。訪れる人たちは座ってお茶を飲み、世間話をして帰っていく。現代社会が抱える多くの問題に反し、その場所では時間が止まったような、人と人とのつながり、地域のつながりを大切にする文化が残っている。その風景を絶やさないために、本計画では、暮らしの中に人を迎える集いの場を提案する。大きな土間を中心に建具を開閉することで、公私の分離・機能・視線の広がりを調整し、柔軟な動線を可能にする。それは伝統的な農家住宅に見られる田の字型プランを思わせ、来客を大切にし、温かく迎える日本文化の再現とも言える。少しの時間、そこで過ごしてみたくなる空間、そしてまた来たくなる居場所となるように。

敷地 土地の持つカラ

計画地の新潟市秋葉区は花き園芸の産地として知られ、今回の施主も先代から続く園芸農家だった。豊かな自然、地域のつながり、人と人のつながり。ここではあたりまえの日常風景が、現代日本が抱える様々な問題を払拭してくれるような光を感じた。

日本が抱える問題

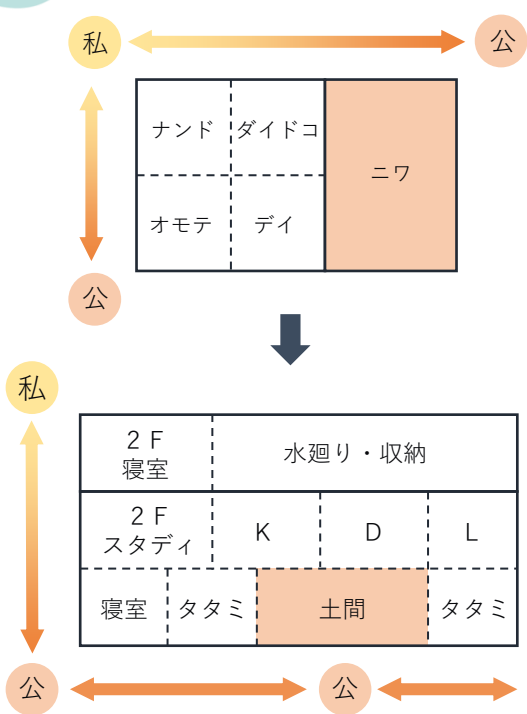
少子高齢化
地域コミュニティの衰退
集落消滅、過疎化
地域産業の衰退
無縁社会や孤独死
多文化共生
貧困問題
環境破壊 など...

未来のために

日本が抱える問題を解決し、持続可能な社会を築くには、地域社会やコミュニティの核である「家庭」に焦点を当てるのが重要と考えた。家庭という中心から、内部空間を自在に変化させるように外部まで広がってゆく。自然と調和し、地域と共に暮らす。未来へつなぐコアとなるように。

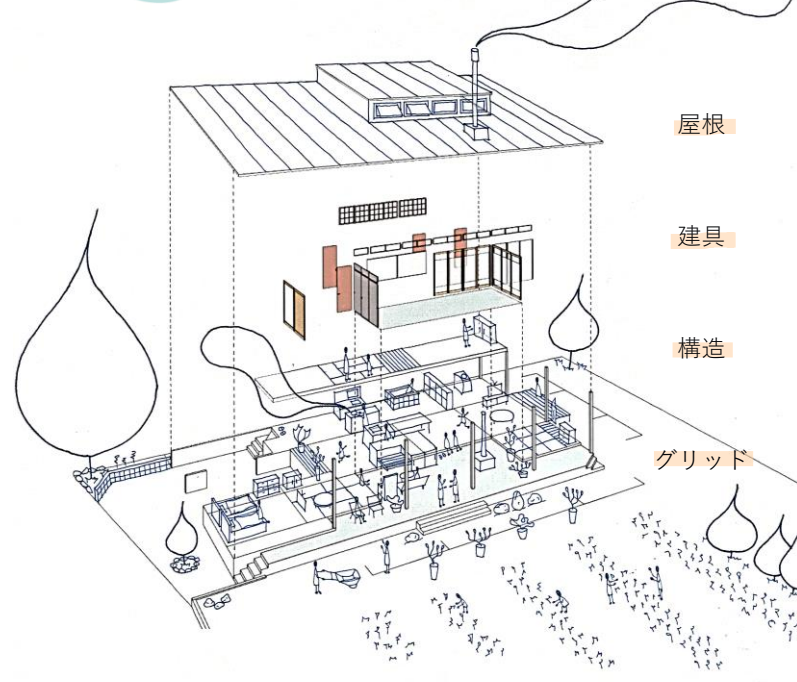


田の字型

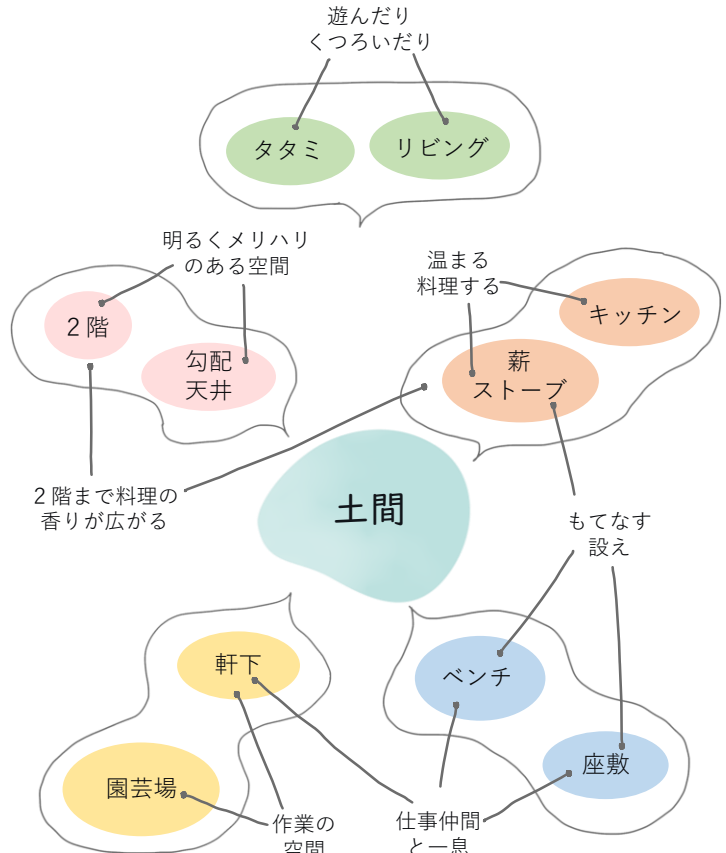


田の字型は日本の住宅の原点とも言われている。襖や障子で間仕切り、大人数が集まるときには取り外して広く使える工夫がされている。玄関から奥へ行くにつれてプライベート機能が配置され、眺望と日当たりの良い南側は来客・家族のための集いの場が配置された。空間は、建具の開閉によりどこまでも伸び縮みする。

グリッド



平面は二間と一間半を基本単位とし、各グリッドに機能を配置することで居場所をつくっている。そこに、高さを加える・床の素材を変える・多種多様な間仕切りで仕切る、などの要素を入れることで、規則的な空間に視覚的な刺激を与えている。シンプルなグリッド構成でありながら、変幻自在な空間を作り出している。



この家の大きな特徴は土間空間である。玄関・接客・作業場・遊び場・台所など様々な顔を持つ。また、内と外・パブリックとプライベート・汚れても良い場所とクリーンな場所など、相反する要素をつなぐ役割を担っている。どの空間とも関わりを持ち、他の空間と関わることで新たな意味が生まれ、柔軟に変化する。

